

Q 立地適正化計画によって、都市機能誘導区域である花巻地域の中心市街地活性化は進められているが、大迫、石鳥谷、東和各地域における中心市街地の再生・活性化に向けた取り組みについて伺う。

A 【市長】大迫地域の市街地の特徴は非常に立派な建物が残っているが、地域で活用の意思がなければ難しい。活用したいという地域住民の声がある場合には支援を検討したい。石鳥谷地域は住宅地として開発を考えており、すでに私有地を取得、宅地として開発することで計画策定に入っているほか、他の空き地の活用についても考えていく。東和地域はさまざまなイベントを行って非常に元気があり、市外、県外の方々を受け入れやすい土壌にもあることから、その面を生かしていきたい。

旧3町の市街地再生方策は特色を活かした支援を行う



瀬川 義光 議員
(市民クラブ)

【市長】大迫地域の市街地の特色を活かした支援を行う。旧3町の市街地再生方策は、特色を活かした支援を行う。大迫、石鳥谷、東和各地域における中心市街地の再生・活性化に向けた取り組みについて伺う。

地域おこし協力隊は

Q 第1期の地域おこし協力隊員は、平成30年度で任期の3年となり、今後もこの制度を継続することが市の活性化に有効であると考えますが、今後の方針について伺う。

A 【市長】地域おこし協力隊員の48%が任期満了後も活動地として同一市町村に定住されているとのデータが総務省から示されている。本市の場合、平成30年度中に任期満了を迎える隊員5名中、4名が本市に住み続けたいとの意思を示されていることは評価されるものであり、引き続き取り組みを継続していく。また、まちづくりの課題を抽出し、その解決に向け地域おこし協力隊制度を活用することも検討していく。

【そのほかの質問】教育課題について



特色ある取り組みのひとつ
「花北青雲高校チャレンジショップ」
(石鳥谷町中央商店街)

市政「こ」が聞きたい
いっぱん質問

花巻駅の橋上化について慎重に検討していく



照井 省三 議員
(平和環境社民クラブ)

【市長】花巻駅橋上化については、現時点で橋上駅タイプと半橋上駅タイプの2案について調査を進めている。市としては、それらの調査結果を踏まえ、実施にあたり多額の費用負担が生じることが予想されることから、事業に対する国の補助制度等の活用や東日本旅客鉄道側の負担の可能性も含めて、慎重に検討していく。

Q 立地適正化計画による花巻駅周辺整備計画の花巻駅橋上化について伺う。また、新花巻図書館の移転整備について包括連携協定を締結したUR(都市再生機構)の調査・検討状況について伺う。

A 【市長】花巻駅橋上化については、現時点で橋上駅タイプと半橋上駅タイプの2案について調査を進めている。市としては、それらの調査結果を踏まえ、実施にあたり多額の費用負担が生じることが予想されることから、事業に対する国の補助制度等の活用や東日本旅客鉄道側の負担の可能性も含めて、慎重に検討していく。

県立高校再編の対応は

Q 花巻南高校の同窓会・PTAは、平成31年度1学級減の再編計画見直しを求めて署名活動を展開し、1万5千名以上の集約をするなど活動を展開している。これらの活動と再編計画への本市の対応について伺う。



年間約120万人が利用するJR花巻駅

A 【教育長】対象となった高校については、今後、さらに学校の魅力づくりを努め、志願者を確保していくことが重要である。市としては、前期計画において再編対象とされた3校と適宜連絡を取り合い、学校の魅力づくりに対する市の支援や県教育委員会との意見交換の場にあつては、各校の要望に沿って対応していく。

【そのほかの質問】教職員の多忙化解消策について

総合的なガイドブックの周知はダイジェスト版の作成を検討

Q 市の「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる分野において作成した、各種子育て支援に関する総合的なガイドブック」は、当該者に行き渡らせることはもちろんだが、広く市民にも手に取ってもらい、家庭や職場内などでも支援内容が話題として取り上げられ、理解が深まることの本事業の着実な推進につながるものと思うが、周知の仕方を伺う。

A 【教育長】平成27年度より発行を開始した「花巻市子育てガイドブック」には、子育て全般に関する情報が網羅されており、毎年改訂を行っている。現在、母子手帳交付時や、未就学児のいる世帯の転入手続きの際に配布しているほか、国保医療課、地域福祉課、子どもセンター等にも配置し、希望者に配布している。また、花巻市のホームページ



近村 晴男 議員
(花巻クラブ)



各種支援制度を紹介する子育てガイドブック

小田越登山道への負荷

Q 早池峰山の河原の坊登山道閉鎖により、小田越登山道の負荷が増大しないか。また、その対策は検討されているか。

A 【市長】河原の坊登山道閉鎖以降は、小田越登山道に登山者が集中している。県では、登山口の仮設トイレを4基から8基に増設、早池峰マナーガイドを配布しマナー向上を図っている。また、登山者が混雑する8合目のはしご付近では、ボランティアが誘導活動を実施。今後も保護管理員から情報収集し登山道の状況を伺いながら、環境美化や自然保護対策に努める。

【そのほかの質問】景観から受けるマイナスイメージについて、大迫商店街活性化策について

子ども発達相談センターの活用は発達相談、親子教室を実施

Q 発達支援事業は、近年ますますニーズが高まる事業であり、今後、療育指導など専門職員を養成し、長期に確保していく必要がある。花巻市子ども発達相談センターの利用状況と平成30年度の職員配置について伺う。

A 【教育長】利用状況については、平成24年度から28年度で、発達相談件数は年間それぞれ105件、116件、131件、108件、111件、親子教室のべ参加人数は同様に1931人、2236人、2214人、2321人。職員配置については、早期療育事業の指導を行う6名の療育指導員や小児科医、専門的な検査や相談を行う4名の療育専門員を配置している。近年、初回相談時の低年齢化や相談内容の多様化により指導員や専門員の負担が増えたことから、平成29年度から副所長と保育士に正職員2名を配置している。



藤井 英子 議員
(花巻クラブ)

在宅医療・介護連携は

Q 花巻市高齢者いきいきプランの中に医療と介護の連携推進があり、大変重要である。在宅医療介護連携を推進するための体制整備について伺う。

A 【市長】情報共有のための連携シートの作成や、かかりつけ医とケアマネージャーの連携のためのケアマネタイムの作成、「在宅生活を支える多職種が集う会」の開催のほか、「在宅医療介護連携推進会議」を立ち上げた。また、関係者間の相談支援窓口として、医療の資格を有する専任の非常勤職員を長寿福祉課に配置し、医療と介護が一体となった在宅生活を支援する仕組みづくりを進めていく。

【そのほかの質問】市長施政方針について



改築を終え新たなスタートを切った子ども発達相談センター